

# イモリ

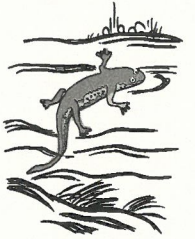
き魚の項目に  
人魚がいました



魚扱い  
されてるね

Vol. 30

# しんぶん



発行日：2022年 5月 10日

発行：朝日塾中等教育学校 理科

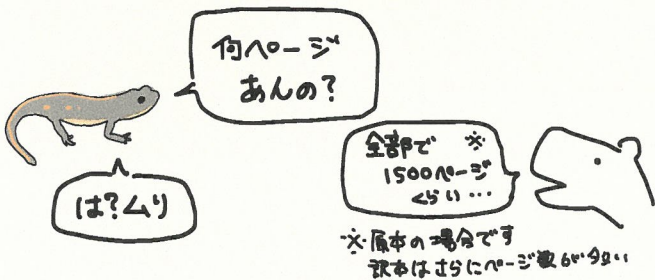
google books

## アカハライモリの文献記録

アカハライモリ (*Cynops pyrrhogastor*) が国際的に知られる(記録される)ようになったのは、アカハライモリの学名が付けられた時です。1826年に Boie という人が発見し名付けたことになっています(Boieさんについては調べてみましたがくわしくは分かりませんでした)。

国際的には1826年に知られるようになったとしても、日本ではもっと早くに確認されているはずですよ。ではそれは一体いつなんだろう・・・、ということで調べてみると、『倭漢三才圖會(わかんさんさいずえ)』という百科事典での記載がありました。この本は、江戸時代中期に寺島良安という人が編纂した百科事典です。1712年に初版が発行されたそうです。

この「倭漢三才圖會」、なんと全部無料で読める！  
\*国全国書館デジタルベース  
\*原著のほうです



索引が「あいうえお」順ではなくて、「いろは」順だったのが江戸時代、ぼい。

← 倭漢三才圖會「より、アカハライモリについて記載されているページ」

△按蟾蜍生草澤溪澗及野形中俗稱并守形似蟾蜍而小全體正黑止腹微赤有小黑點頭圓偏口大性洩能文夜深至五時多出土人傷其時取之置於水中俗傳日捕其合穴者雄與雌隔山燒之以為解毒壯夫爭求之蛤蚧最為佳然未試其効也所謂入水與魚合穴者石蟾魚子又謂青黃色或白蟾者其數

ヨシイモリ  
蟾蜍 地醫 蟾蜍 地醫 蟾蜍  
記 俗云并毛刺

最後は歌でしめくくる(何ぞ?)



エ...エー??  
エーエー??

蟾蜍(まいげん) = イモリ のことぞす。

△以前の文章は、『本草綱目』という全52巻の明の李時珍が書いた薬学本の引用のようです(本草綱目は1578年に完成)。

△の部分は、訳すと「思うに～」から始まる文章となっていて、『本草綱目』を読んだ解釈を述べているようです。『本草綱目』の内容と寺島良安が書く内容は異なっているので、おそらく日本のイモリ(=アカハライモリ※)に合わせた内容にしているものと思われます。※本州にはアカハライモリしかいません。

ちなみにですが、この内容はもちろんさっぱり読めないなので、訳本を読んでイモリしんぶんを書いています。

次回 イモリの文献記録2